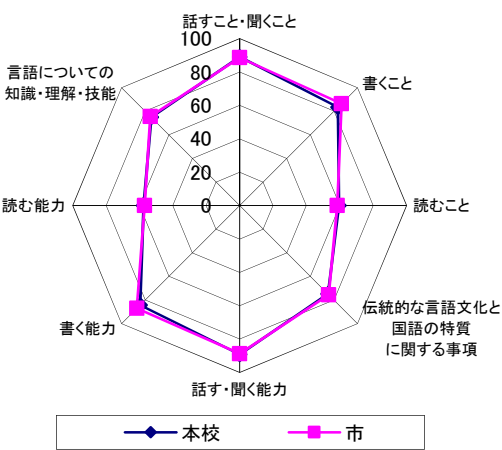


宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	89.1	88.7	89.1
	書くこと	83.2	86.4	64.2
	読むこと	59.6	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	89.1	88.7	89.1
	書く能力	84.3	87.1	66.7
	読む能力	57.5	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	74.9	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

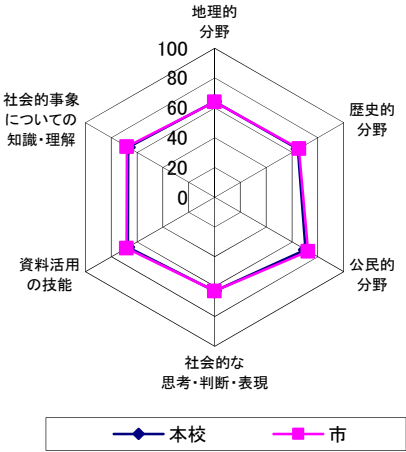
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均を0.4ポイント上回っている。○話の内容を正確に聞き取ることや根拠を明確にして自分の意見を話すことは93%以上の生徒ができています。司会者の工夫を聞き取る設問に対する正答率は、市の平均を4.4ポイント上回っている。	・全学年で授業のはじめに「言葉の宝箱」という各生徒が調べて発表する活動を実施している。スピーチを聞いてメモを取り、内容をまとめる取り組みを今後も継続し、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫や話す内容を整理できるような指導を今後も続ける。
書くこと	平均正答率は市の平均より3.2ポイント下回っている。●自分の考えを明確にし、3段落構成で書くことに課題がある。特に指定された字数で書くことは、市の平均より4.1ポイント下回り、課題がある。	・書くことに対する抵抗感を減らすために、自分の体験や知識をもとに文章の構成を工夫し、簡単な文章を書かせる時間を増やしたり、作品を読んで書評を書いたりする時間を確保する。また、書いた文章を推敲して、より読みやすい文章に仕上げる活動を取り入れる。
読むこと	平均正答率は市の平均よりも1.1ポイント上回っている。○説明文の内容を捉えたうえで、それを別の事例に当てはめることは、市の平均よりも1ポイント上回り、文章の構成や展開を捉えるのは、市の平均より5.1ポイント上回っている。また、文学的作品を読み、登場人物心情を捉えるのは、市の平均より3.9ポイント上回っている。	・説明文の接続詞や文末表現に注目させながら、文章の内容を捉えるポイントを押さえる。また、文学的文章では、場面や登場人物のものの見方や考え方などを捉えて読み味わわせるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率が市の平均より0.7ポイント下回っている。○漢字については、読みの正答率は、80%以上である。「濃霧」の読みに関しては、100%の生徒が読めている。●古典では文章の展開に即して内容を捉えることに課題がある。	・漢字の書き取りは、授業の前の帯活動である「3分間チャレンジ」を今後も継続していく。古典では、歴史的仮名遣いに注意しながら、音読み現代語訳や注釈を参考にして、内容をつかめるように指導する。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	64.2	64.0	50.9
	歴史的分野	64.7	65.3	57.1
	公民的分野	70.5	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.0	62.9	52.3
	資料活用 の技能	67.2	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	66.8	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

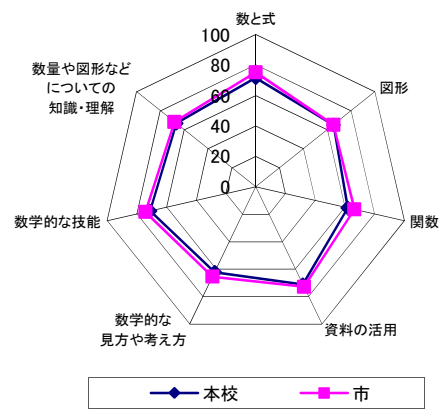
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率は市平均を0.2ポイント上回っている。 ○思考・判断・表現を観点とする問題では、ほとんどの問題で市平均を上回っており、思考・判断・表現する力はある程度身に付いている。 ●技能や知識・理解を観点とする問題では、市平均を下回る問題が多く、資料を活用する技能や基礎・基本の定着を図ることが課題である。	・授業の中で、資料の読み取りを多く取り入れることで、資料を活用する技能向上を図る。 ・「5題テスト」を授業開始時に毎回行うことで、前時の内容の定着を図る。
歴史的分野	平均正答率は市平均を0.6ポイント下回っている。 ○知識・理解を観点とする問題では、概ね市平均と同等であり、知識は概ね定着している。 ●「近世の日本」についてのすべての問題において市平均を下回っており、2年時の学習内容の定着度が低いことが分かる。	・「5題テスト」を授業開始時に毎回行うことで、前時の内容の定着を図る。 ・年表を用いることで、歴史の流れを意識させる。 ・絵図や写真などの具体物を提示し、読み取らせることで、資料を活用する技能や歴史的事象への興味・関心の向上を図る。
公民的分野	平均正答率は市平均を1.9ポイント下回ってはいるが、昨年度より市平均との差が0.6ポイント縮まっている。 ●「現代の民主政治と社会」の単元におけるすべての問題において市平均を下回っており、政治分野の学習内容の定着度が低いことが分かる。	・新聞記事を切り抜き、その記事についてノートに意見を書く「スクラップノート」に取り組むことで、社会的な事象に興味・関心を持たせる。 ・政治分野の学習において、時事ニュースを取り入れることで、実社会での政治と政治分野の学習との関連を把握させる。 ・「5題テスト」を授業開始時に毎回行うことで、前時の内容の定着を図る。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.5	75.0	70.3
	図形	65.2	65.2	63.4
	関数	61.9	66.4	51.5
	資料の活用	71.2	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	62.1	65.5	55.1
	数学的な技能	71.1	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	66.7	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

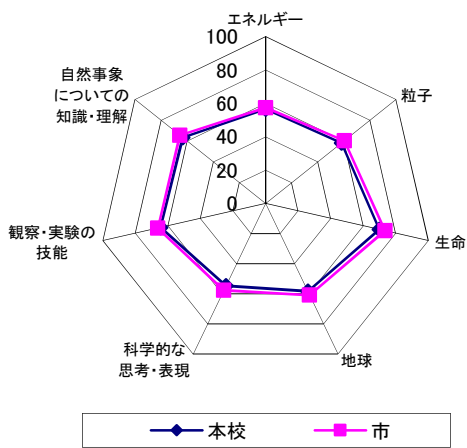
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は4領域の中では最も高いが、市平均に比べて3.5ポイント下回っている。また、昨年度よりも1.6ポイント下回っている。 ○多項式の因数分解、文字を使って数量を表すことはできている。 ●基本的な計算(技能観点)の平均正答率が市平均を下回っているものが多い。特に平方根の単元が低い。	・毎時間にしっかりと振り返り活動を行っていくことで、理解につなげていく。 ・授業の時間はもちろん、家庭学習などでも反復練習を行うよう指導していく。 ・平方根の計算はルールがたくさんあるので、一つ一つ整理をさせながら練習をしていく。
図形	平均正答率は、前年度に比べて平均正答率は下がってしまったが、今年度の正答率は市平均と同等である。 ○作図や、証明に関する問題は概ね市平均を上回っている。 ●相似な図形の性質から辺の長さを求める問題は、市平均から5.3ポイント下回っている。	・相似な図形の性質など、基礎をしっかりと知識として覚えさせる。 ・覚えた知識を、さまざまな問題に使えるように練習をしていく。
関数	平均正答率は、市平均に比べて4.5ポイント下回っている。昨年度差の3.0ポイントからさらに下回ってしまった。 ○グラフの傾きと切片については、理解できている生徒が多い。 ●示された数学の問題が正しくないことを、グラフを根拠に説明する問題の平均正答率は、市平均を8.9ポイント下回っている。 ●xの2乗に比例する関数の平均正答率は、市平均を下回っている問題が多い。	・問題文を正しく理解し、それを式・表・グラフに関連付けて考えることを繰り返し行っていく。 ・長文の問題に慣れさせていく。
資料の活用	平均正答率は、市平均と比べて1.6ポイント下回っているが、昨年度の平均正答率を上回り、市平均との差は縮まっている。 ○基本的な確率を求める問題は、正答率が85.3%である。 ●中央値について正しく理解できていない生徒が多く見られた。	・練習問題を多くやっていく中で、平均値、中央値(メジアン)、最頻値(モード)、階級値など、基本的な知識を習得させていく。 ・確率では、問題に応じて樹形図や表を自分でつくり、活用できるよう、いろいろな問題を解いていく。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.6	57.5	51.6
	粒子	58.1	60.3	53.0
	生命	69.9	73.4	67.9
	地球	58.3	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	54.7	57.7	51.5
	観察・実験の技能	64.5	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	63.4	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

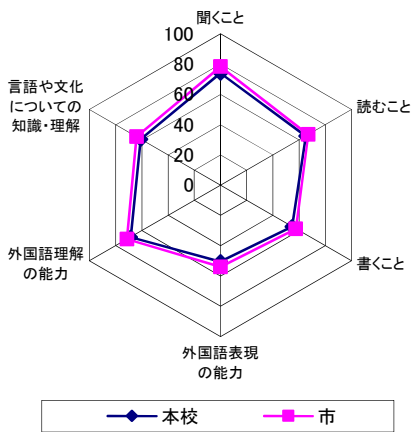
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べて0.9ポイント低い。 ●科学的な思考力に課題が残る。 ●計算により、解決する能力に課題がある。	・エネルギーは実社会に必要な考えであることを強調する。また、資源の有効活用や、新しいエネルギーの開発には何が必要なのかという視点に重点をおいて学習させる。 ・例題を多く提示し、何度も計算による問題演習を繰り返し取り組ませる。 ・定着するまで長い期間で取り組ませる。
粒子	平均正答率は、市の平均と比べて2.2ポイント低い。 ●イオンのモデルを理解していない等の課題がある。	・目に見えない小さな粒子を取り扱うので、モデルを提示し、科学的な思考を養えるようにする。 ・数量や質量等、量的な関係を意識させ、化学変化におけるきまりなどを学習させる。 ・各章や各単元のつながりを意識させ、科学的に思考させる。
生命	平均正答率は、市の平均と比べて3.5ポイント低い。 ●1, 2年時の内容が薄れてしまっている。 ●漢字の間違いや、単純にことばを理解していない等の課題が残る生徒もいた。	・授業後の振り返り時に、その日の学習内容の確認をしっかりと行う。 ・重要単語を書いて覚える等の課題を与え、継続的な知識とさせる。
地球	平均正答率は、市の平均と比べて2.6ポイント低い。 ●自分が持っている知識を材料として、説明する問題に対して、的確に組み立てられない。	・グループ学習などの言語活動を多く取り入れ、思考を表現する実践を多く取り入れていく。 ・各自が学習した内容を、他の生徒に分かりやすく説明させる活動を授業に加え、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.0	78.4	72.9
	読むこと	65.1	66.9	63.2
	書くこと	54.5	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	50.5	54.0	51.1
	外国語理解の能力	68.5	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	60.8	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、3領域の中では最も高いが、市の平均を4.4ポイント下回っている。 ○絵を適切に表している英文を聞き取る問題や英文の要点を聞き取る問題においては、正答率が高い。 ●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語を記述して答える問題の正答率は市の正答率よりも5.9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・音読練習の際に、音の連結や脱落などの変化を事前に指摘しておく。 ・日ごろからクラスルームイングリッシュやインタラクシオンを多用するなど、継続した指導が必要である。 ・定期テストや単元末テストにおいてまとまりのある英文のリスニング問題を出題し、聞く力を身に付けさせたい。 ・授業内で、「聞くこと」と「書くこと」が関連付けられた活動を積極的に取り入れて指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を1.8ポイント下回っているが、前年度の市との比較よりは6.2ポイント伸びている。 ○長文の読み取りにおいて、指示語の内容を把握する問題では、9割近い正答率を示しており、まとまった英文から必要な情報を得る能力が高い。9月からの授業の帯活動で長文読解に取り組んだ成果だと思われる。 ●ブログの内容をふまえた感想を書く問題の正答率は、市の平均を7.5ポイント下回っている。	・いろいろな種類の文章に慣れさせ、英文の概要をつかむ読み方の習得を目指す。 ・英文読解後に、内容を英語で要約したり、自分の感想を英文で表現したりするような活動を増やし、読む活動の中に書く活動をまじえながら指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を3.0ポイント下回っている。 ○自分が何をすることが好きなのかを表す英文を書く問題では、市の正答率を6.3ポイント上回っている。 ●疑問詞を使う作文に課題があり、特に「疑問詞＋to不定詞」の語順を問う問題では、市の正答率を15.8ポイント下回っている。	・教師や級友との、英語による口頭のやり取りを増やしていくことで、自分の身の回りのことを英語で表現する機会を増やし、書く活動につなげていくように指導を行っていく。 ・授業の振り返りとして、その日のポイントとなる文法事項を活用した自己表現活動を繰り返し取り組ませ、自分の考えを英文にする指導を継続していく。